

皆様 こんにちは

1月23日に当院のミニがん教室は、『免疫チェックポイント阻害剤とは？』の演題で行われます（病院のホームページで告知されていますが）。

免疫チェックポイント阻害剤の話題はこれまでも、このコラムでも取り上げてきました。ノーベル賞に関係した薬として皆様の感心が高い薬剤と思います。

一方で、これまでの他のがんに対する薬剤と毛並みが違う薬のため、取扱いには十分な注意が必要です。

当院では病院を挙げて同剤に対する安全な体制作りに取り組んできました。

従って、当院で同剤による治療を受けている方は、過度に心配する必要はないので安心してください。

31回の本コラムでお伝えしたように、保険診療として、免疫チェックポイント阻害剤は多くのがんにも用いることができるようになってきました。

治療を提供する我々もそれに対して十分に準備と研鑽を継続的に積む必要があります。

すでに昨年のお話になってしまいますが、2018年12月22日に、日本臨床腫瘍学会が主催の『がん免疫療法エキスパートセミナー』を受講してきました。

各がん診療の拠点的な施設で指導的立場にある人が対象で、全国から参加者がいました。

応募者が多すぎて学会の方で地域性など考慮され、私は運良く受講することができました。

下記はその修了証です。



今後にもいろいろな免疫チェックポイント阻害剤が世にでてくると思いますが、基本的な対応は同じなので、これまで当院で培ってきたノウハウと、学んできた情報を合わせて、より円滑かつ安全に同剤を用いた治療が行えるようにしていきたいと思っています。

では、また。